

の旅…
ある。

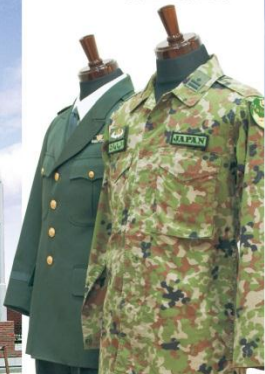


■国見の図

明治18年、後の北海道長官岩村通俊は屯田兵本部長永山武四郎らと共に上川地方を検み、現近の近文山から上川原野を望み、旭川に一大都市を置くという構想がうまれました。この絵は旭川の夜明けを告げるものとして特に意義深いものです。

■歴史の伝承

昭和27年保安隊として旧陸軍第七師団跡地に移転して以来、自衛隊の創設や部隊改編により現在の第2師団となり旭川駐屯地としての歴史を刻んでおります。師団は、先人達の労苦を偲び、かつ北の防人としての誇りと平素の訓練成果を生かし、国際社会の平和と発展にも寄与してまいります。また、本記念館が歴史の伝承の場として多くの方々にご利用頂けるよう勤務員一同、御来館をお待ちしております。



ACCESS

旭川駅よりバス(旭川電気軌道・道北バス)で約20分
旭川鷹栖ICより約15分



北鎮記念館

〒070-8630 旭川市春光町陸上自衛隊旭川駐屯地隣
TEL/FAX 0166-51-6111(北鎮記念館呼出)

【開館時間】 夏期(4~10月)午前9時~午後5時まで
冬期(11~3月)午前9時30分~午後4時まで
【休館日】 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)
【閉館日】 12月28日~1月3日
【入館料】 無料
【駐車場】 普通自動車25台、大型バス3台、身障者用2台
【バリアフリー】 トイレ、エレベーター、見学経路、貸し出し用車椅子2台
【ホームページ】 「北鎮記念館」検索
※ご希望により館内案内もできます。

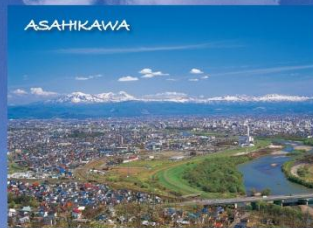
北鎮 記念館

Hokuchin Museum
ASAHIKAWA



北海道・旭川を巡る歴史 私たちの原点がここに

北海道の防衛と開拓に携わった屯田兵や旧陸軍第七師団の歴史や戦後、警察予備隊、保安隊の時代を経て、地域の方々と共に歩んできた陸上自衛隊第2師団の活動等、開拓と防衛の歴史を物語る貴重な資料約2,500点が展示してあります。



■旭川の発展

明治23年、旭川村が設置され、屯田兵や開拓民の入植により北海道の開拓と防衛の拠点として、多くの人々が集まり現在の旭川の礎を築いたのです。これに基盤をかけたのが、七師団の移駐です。それから、約120年この旭川、農業や家具、パルプを基幹産業とし、教育、文化、医療などの機能都市が集約する北海道第二の拠点都市として発展してきました。





■屯田兵育ての親永山武四郎

永山武四郎は第2代 北海道長官であり、旧陸軍初代の第七師団長でもありました。また、屯田兵育ての親ともいえ、その一生を屯田兵制の育成に終始しました。この偉人の名は旭川の「永山町」と共にいつまでも残ることでしょう。



■第七師団の創設

明治29年北海道の防衛のため、札幌に第七師団が新設され明治34年に旭川に移駐しました。師団の兵力を一か所に集めるという、陸軍でも最大規模の第七師団編成地が建設され、「軍都旭川」が生まれました。

■パネル「旭川の石碑」

旭川周辺には数多くの石碑がありますが、ここでは屯田兵や旧陸軍ゆかりのある碑に限定して、建立時期、由来、所在地などを紹介しています。



■北海道の開拓と屯田兵

屯田兵は、北海道の防衛と開拓、さらに開拓地帯で暮らした土族の救済が目的で明治8年から入植がはじまり、同32年までの25年間で約4万人の兵員と家族が移住しました。想像を絶する厳難辛苦が、現在の豊かな北海道の礎であることを忘れてはならないでしょう。

■昭和の第七師団、大正の第七師団

シベリア出兵、沿海州における居留民救護、滿州事変や支那事変、ノモンハン事件など大正から昭和にかけての流通の歴史と、関東大震災や十勝岳の噴火などの災害派遣、北海道大演習などを紹介。

■多目的室

自衛隊や北道記念館に関する概況説明、映像鑑賞、企画展、特別展等の会場などに使用します。



■パネル「第七師団総覧」

記念館展示の目次ともいえるパネルで、第七師団の歴史と師団が戦った戦域等を表示しています。記念館の展示品の多くは、この歴史の流れに沿って展示されています。



■第七師団史

当時の軍の機密文書であったこの「師団歴史」は終戦時日第七師団司令部に勤務していた黒川幸雄氏がこの貴重な資料を自宅に持ち帰り、命がけで保護したもので、明治2年から昭和20年6月までの重要事項が究明に記録されています。平成18年 旭川市の文化財に指定

■「第七師団とゆかりの文学」図書コーナー

第七師団に縁のある文学者や、第七師団を題材にした作品などを紹介したり、寄贈図書や資料を自由に読んでいただけるコーナーです。



■自衛隊（第2師団）コーナー

旧陸軍から自衛隊を経て自衛隊（第2師団）の歴史や、日第の創設の様子、国際貢献活動、市民との関わりについて紹介。



■第七師団と日露戦争

明治37年2月10日の宣戦布告ではまった日露戦争は、開戦当初から第七師団を除く常備師団の全てと、多数の後備兵を動員しましたが、樺太・沿海州方面に対する不安と、ウラジオストック艦隊の動きが不明であったことから、第七師団が動員が下令されたのは8月4日でした。師団は第3軍の指揮下に入り、11月27日の第三次総攻撃から参加しています。



■北海道スキーの伝来

明治45年2月、オーストラリア陸軍ルビ中佐が札幌陸軍隊に配属となり、2月20日、師団の軍人や郵便局長、新聞記者などが参加して、北海道ではじめてのスキー講習会が開催されました。これにより、旭川が北海道スキー伝来の地となりました。



■郷土の英雄「加藤隼戦闘隊長」

主に東南アジアで活躍された陸軍飛行隊です。第4代戦闘隊長として兼任された旭川村出身、加藤隼中佐、通称「隼」を駆使し、空中戦の技能に優れ、感状を7度受けるという陸軍飛行隊創設以来、最高の受賞記録を有していましたが、敵機と交戦中戦死され、陸軍将校初の二階級特進されました。



■時代と共に生きた道具たち

今では見ることができないような、昔懐かしい生活用品などを展示しているコーナー。時代を見てきた道具達です。



■第七師団と大東亜戦争

南方のガダルカナル島や北方のアッツシ島の戦線と、大東亜戦争末期の北海道の防衛態勢や昭和20年8月15日前後侵襲して来た「連軍」の戦線などを紹介。

